

# ほほえみの



# かけはし

題字：赤木院長白筆

第5号 平成25年2月発行

玉名地域保健医療センター 広報誌

発行：玉名地域保健医療センター広報編集委員会

所在地：熊本県玉名市玉名2172

電話：0968-72-5111（代表）  
0968-76-7066（医療連携室）

ホームページ：<http://www.tamana-medical.com>

## ハイパーサーミア導入

院長 赤木 純児



玉名地域保健医療センターは、昨年11月にハイパーサーミアを導入致しました。実際に11月16日よりハイパーサーミアによる治療を開始しております。

ハイパーサーミア(がん温熱療法)は、がん病巣を中心に体表から二極の電極盤ではさみその間に高周波(ラジオ波)を通すことで、がんの局所の温度を42.5℃以上に上げてがん細胞を特異的に殺す療法です。周囲の正常細胞も温度が上がりますが、正常組織の血管はがん組織と同じように温めても拡張することで熱を逃し42℃以上には上がらなくなっています。一方、がん組織の血管は温められても拡張することができないため、がん組織の温度は42℃以上に上昇することになります。42.5℃以上になると、がん細胞は死んでいきます。ハイパーサーミアは、単独でもがん細胞を殺す効果がありますが、放射線や化学療法と併用することでその効果が高まります。また、がん組織が42℃以上に上昇したときには、周囲の正常組織も39~41℃くらいに温度が上昇し、それによって患者の免疫力が高まる効果もあります。

理論上あらゆるがんに有効ですが、これまで無作為試験で有効性を示されている疾患は、再発乳がん、メラノーマ(悪性黒色腫)、子宮頸がん、直腸がん、膀胱がん、頸部リンパ節転移などがありますが、これら以外でも肺がん、食道がん、肝臓がん、膵がん、胃がんなど脳・眼球を除くほとんどすべての

がんで、有効性が多数報告されています。早期がんはもちろんのこと、再発がんや転移性のがんにも応用でき、延命効果と症状緩和が認められています。

ハイパーサーミアは、次のような患者さまに適応があると考えられます。

- ①手術、化学療法や放射線治療を行なっている患者さまに併用することでその効果を増強すること、
- ②化学療法に抵抗性になった患者さまに使用することで抵抗性を減じてその効果を回復させること、
- ③手術、化学療法、放射線治療の三大治療で効果が認められなくなった、所謂「がん難民」の方にも、ハイパーサーミアは単独でも抗腫瘍効果、免疫賦活効果、症状緩和効果があります。こういう癌患者さまがおられましたら、是非ご連絡下さい。



# 玉名地域保健医療センターに期待すること

吉村循環器科内科医院 院長 吉村春雄



医療センター設立時の、諸先輩の御苦労話を聞くことがあります。莫大な額の借入金の保証人になる心的な負担、銀行等との借入金の交渉、厚生省との設立交渉、会員の総意を得るための説得など。諸先輩の多大な努力と熱意の賜物として、医療センターは設立されたのです。その御苦労を思うとき、医療センターは玉名郡市医師会の宝であると確信します。宝は、磨き上げより一層輝かせねばなりません。

そのためには、黒字運営をすべきであることは申すまでもありません。会長、院長等で構成される運営委員会の健闘に、大いに期待するところがあります。

保健医療を主なものとする医療環境は、設立当時と大きく変わっています。有明医療圏のみならず、熊本市、大牟田市の公的医療機関から、患者獲得のための働きかけが頻繁にあります。いかなる患者でも、入院依頼を快く受け入れてくれます。新しく改築された病院は、ホテルと見間違ふほど美しく、買い物を楽しむことができる設備まで備えています。患者の意識も変わり、要求度は高まるばかりです。

このような医療環境の中で、医師会立病院の存在意義は何であるのか。それは、「会員の、会員に

よる、会員のための玉名地域保健医療センター」であると、考えます。それを実現するためには、勤務される医師をはじめ職員の皆さんの御協力の下、今できる些細なことから実現していくことが、肝要であります。私は、医師会で総務担当理事と玉医会担当理事を拝命しております。崇高な精神で設立された「たまきな荘」は、玉名郡市医師会の至宝であります。下半身は麻痺し上半身の機能のみの方が、自力でベッドから車椅子に移られません。頭部の機能のみの方が、自力で車椅子を操作し、映像機器を操作し音楽や映像を楽しみ、毎日を明るく過ごされています。正月や御盆に帰宅する事が出来るのは、少数の方に限られます。そのような姿に接するとき、怠惰な毎日を過ごし不平不満に心が奪われがちな私は、恥じ入り悔い改めるばかりです。医療環境の変化に伴い、医療の必要度の高い方が、「たまきな荘」に入所されるようになっていきます。既定事実である入院ベッド数削減が実現されると、この傾向は更に強まると推察されます。必然的に、入院加療が必要な状態になる方も、更に増加するでしょう。そのような状況下になろうとも、医療センターの皆さんには、今までどおりの慈愛に満ちた対応を期待します。



『カワセミ』

吉村 春雄





## 言語聴覚士 峠 和馬



本年度4月に入職しました言語聴覚士の峠です。リハビリ職種での言語聴覚士(以下ST)は、PT(理学療法士)やOT(作業療法士)に比べるとまだまだ知名度も低いため、簡単に歴史からご紹介します。

STの国家試験は1998年から開始され、現在も年間1,400名以上のSTが誕生していますが、多様化するニーズへの対応や拡充が未だに不十分な状況です。

業務内容としては、おもに脳血管疾患に起因する失語症や構音障害などのコミュニケーション障害の患者様に、言語訓練を実施します。また種々の高次脳機能障害の方も訓練対象となります。近年、増加傾向にある嚥下障害の患者様には、摂食機能療法を実施しています。

当院でも、平成24年度の目標の1つとして、「リハビリの充実」を挙げています。これまでのPT・OTによる機能訓練に加え、7月には整形外科Dr.が赴任され、整形やがんリハにも積極的に取り組んでいます。さらにST業務開設により、PT・OT・STによる包括的

リハの提供が可能となり、相乗効果による機能回復や患者様の満足度に貢献できたと考えています。

ST業務を開設して約10ヶ月が経ちましたが、6月には摂食・嚥下コーディネーターの看護師が入職して、互いに連携・協力して目標達成に努めています。6月、7月と院内スタッフを対象に勉強会を開催しましたが、今後も嚥下障害に対する知識や技術の向上ため、定期的の実施する予定です。また7月には放射線科と協力して、VF(嚥下造影検査)を実施するに至りました。このように多角的な検査が可能となり、嚥下障害のタイプに対応した治療やリハが提供できるようになりました。さらに同月、嚥下障害の患者様により安全に美味しく食べて頂くため、栄養科と協力して嚥下食(Lv.0~Lv.4)を試作し提供しています。

以上のように院内スタッフが一致団結して、医師会の先生方や有明地区の医療関係者の方々に貢献できますように努力精進していきたいと考えております。今後もご指導をよろしくお願いいたします。



## 摂食・嚥下コーディネーター 看護師 西田 成信



本年度6月に入職しました摂食・嚥下コーディネーター・看護師の西田です。“摂食・嚥下コーディネーター”が出来て、まだ3年ですので、知名度はかなり低いと思われる。日本摂食・嚥下リハビリテーション学会公認セミナー(期間は1年間)を受講し、資格認定試験を経て摂食・嚥下コーディネーターとなります。医師・歯科医師・薬剤師・看護師・PT(理学療法士)・OT(作業療法士)・ST(言語聴覚士)・歯科衛生士と、多くの専門職の方が受講されています。業務内容としては、摂食・嚥下リハビリテーションにおけるコーディネート・ST不在の医療機関での嚥下機能評価と訓練・他職種への嚥下リハビリテーション教育・研究発表です。

また、摂食機能療法の評価・訓練の為の需要も非常に高まっています。看護師や介護スタッフによる食事介助でも、食べようとされない・むせが激しい・飲みこんだ後にゼーゼーと呼吸音が聴かれる・食べると熱が出る等の問題がある時に、嚥下機能評価・訓練を実施し、食事姿勢の調整・安全な食事形態への変更・安全な

食食事介助方法の指導を行っています。当院での、摂食・嚥下障害への取り組みでは、STと互いに連携・協力して、STはST処方患者様を、嚥下コーディネーターは、摂食機能療法の患者様をフォローしていますが、看護師・介護スタッフの食事介助のスキルアップを図っていく事が、今後の課題と考えています。

その為、病棟からの要請も考慮して、口腔ケアの動画や実技による指導・誤嚥性肺炎や摂食・嚥下リハビリテーションの学習会を開催しました。その結果、摂食量が著しく向上した患者様に対し、看護師・介護スタッフの方から、食事介助についての質問や実技指導の声が上がるようになりました。また7月より嚥下食(Lx0~Lx4)の提供、嚥下造影検査(VF)の実施が可能となり、詳細な検査による評価と適切な嚥下食の提供が可能となりました。

以上のように院内スタッフが一致団結して、医師会の先生方や有明地区の医療関係者の方々に貢献できますように努力精進していきたいと考えております。今後共、御指導よろしくお願いいたします。

外来医師担当表	月	火	水	木	金	土
外科外来(午前・午後)	赤木純児	佐藤伸隆	大学/赤木	岡本喜雄	岡本喜雄	当直医 (※3)
内科外来(午前)	本田秀和	前田圭介	山崎邦雄	前田圭介	山崎邦雄	
内科外来(午後)	本田秀和	前田圭介	山崎邦雄 本田秀和	前田圭介	山崎邦雄 本田秀和	
消化器科外来(午前・午後)	前田誠士	田代奈津己	(担当医)	前田誠士	泉 良寛	
神経内科		井手正美		井手正美		
整形外科外来(午前・午後)	名倉誠朗				名倉誠朗	
循環器科外来(午前)	大学		海賀千弘	大学	海賀千弘	
泌尿器科外来(午後)				担当医(大学)		
救急副振担当医	前田誠士	佐藤伸隆	前田圭介	前田圭介	佐藤伸隆	
消化管内視鏡	泉 良寛 田代奈津己	前田誠士 泉 良寛	本田秀和 泉 良寛 田代奈津己	泉 良寛 田代奈津己	前田誠士 田代奈津己 佐藤伸隆	
腹部エコー	田代奈津己	前田誠士	佐藤伸隆	泉 良寛 本田秀和	前田誠士	
内科回診		総回診(※1)				
外科回診	担当医	総回診(※1)	担当医	担当医	担当医	
消化器科回診		総回診(※1)			消化器科医師	
内科カンファレンス(17:00~)						
内視鏡カンファレンス(16:30~)					担当医(※2)	
健診(午前)	大林育生 (内科医)	神谷清二 鹿井聖子	大林育生 狐塚絵美子	大林育生 狐塚絵美子	大林育生 岡本喜雄	
健診(午後)		神谷清二	狐塚絵美子	狐塚絵美子	岡本喜雄	
臨時健診担当医	前田圭介 山崎邦雄	本田秀和	本田秀和	山崎邦雄	本田秀和	
たまきな荘	岡本喜雄 井手正美	岡本喜雄			岡本喜雄	

※1 内科系医師、外科系医師合同総回診(8:30~9:30) ※2 担当医師、担当技師、担当看護師にて行います。

※3 土曜日の診療(8:30~12:30)は大学による当直医が行います。

## 玉名地域保健医療センターの 理念と基本方針

### 理念

玉名地域のかかりつけ医と密に連携し、地域住民のため、安心・安全で良質な医療を提供します。

### 基本方針

1. 医師会の共同利用施設として、医師会員と密に連携し、効率的な医療を提供します。
2. 日常業務を誠実にやり、迅速な対応と業務改善を常に心がけ、診療体制の充実に努めます。
3. 医療機器、設備を充実・整備し、良質な医療を提供します。
4. 学童検診、各種健診、人間ドック等を行い、地域の保健活動に寄与します。

## 編集後記

当初計画より発行が遅くなりまして関係する皆様にご迷惑をおかけいたしましたことをお詫び申し上げます。  
今後も玉名地域保健医療センターをよろしくお願い致します。

広報委員会

